

小学校

平成 6 年 度

# 教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

平成6年度

教育研究員名簿

地 区	学 校 名	氏 名
港	赤 坂 小 学 校	内 藤 康 子
新 宿	四 谷 第 三 小 学 校	□ 中 山 真 理
墨 田	隅 田 第 二 小 学 校	染 谷 美 由 紀
品 川	小 山 小 学 校	堀 直 子
涉 谷	長 谷 戸 小 学 校	□ 石 丸 靖 治
杉 並	杉 並 第 二 小 学 校	大 川 眞 由 美
北	滝 野 川 第 五 小 学 校	福 原 幸 子
板 橋	常 盤 台 小 学 校	△ 村 上 玲 子
練 馬	大 泉 南 小 学 校	大 野 佐 知 子
足 立	中 川 小 学 校	◎ 梅 川 令 子
八 王 子	由 井 第 一 小 学 校	石 堂 圭 子
小 平	小 平 第 十 三 小 学 校	宮 寺 康 子
東 村 山	回 田 小 学 校	小 川 静
福 生	福 生 第 六 小 学 校	高 橋 逸 子

◎世話人 □副世話人 △記録

担当指導主事 今 直 樹 教育庁指導部初等教育指導課

# 目 次

I 研究主題	2
1 研究主題設定の理由	2
2 研究仮説	2
3 研究の構想	3
II 研究の内容	4
1 児童の実態	4
2 目指す児童像	4
(1) 自分なりのよさを生かす	5
(2) 音楽活動を楽しむ	5
3 児童が選択する学習活動	6
4 授業の改善と指導事例	7
(1) 学習過程に選択する活動を取り入れる	7
・【選択する活動を取り入れた指導事例】	8
・【出会う過程での指導事例】	10
・【出会う／感じる過程での指導事例】	11
・【感じる←→深める過程での指導事例 ①】	12
・【 ” ②】	13
・【めざす過程での指導事例】	14
(2) 児童のよさを生かせるよう、学習形態に配慮する	15
・【学習形態を工夫した指導事例 ①】	16
・【 ” ②】	17
・【 ” ③】	19
(3) 児童の思いを受け止めるために学習カードを効果的に活用する	20
①学習カード使用の目的	20
②学習カードの活用例	21
【低学年】，【中学年】，【高学年】	
III 研究のまとめと今後の課題	24

# I 研究主題

自分なりのよさを生かし、音楽活動を楽しめる児童を育てる指導の工夫  
—— 児童が選択する学習活動を通して ——

## 1 研究主題設定の理由

人間は、生涯を通して、自己実現をしたいといつも願っている。それが満たされた時に生きることへの充実感を持ち、得られなかった時に疎外感を持つのである。また、自己実現をしたという喜びは、自分だけにとどまらずに周りにもそれが伝わり、さらに自己実現への意欲を喚起させるものである。

自己教育力ということが、近年問題にされているが、人生の基礎をつくる少年期に、音楽を通して自分を表現する喜びを知り、音楽を愛好する心情を育てることは、豊かな人間の育成につながり、非常に大切であると考えられる。

児童は、本来一人一人が、個性豊かな存在である。音楽科は、その内在する個性を学習活動を通して具現できる教科である。つまり、児童は、音を通して自己表現する楽しさを得るのである。しかし、画一的な授業は、一人一人の児童の持つ豊かな個性に十分に対応できない。

古来、人間は、音やリズムや言葉を通して自分の意志や感情を相手に伝えてきた。表現は伝達手段であった。音楽は、そこから発達してきたのである。音楽の喜びは、創造的な自己表現にある。その喜びの表現は、他の人々の心をも豊かにする。

本研究では、教師が、一方的に価値を押し付ける授業に陥らないために、児童が選択する活動に焦点をあてた。児童が、主体者となって曲や楽器、表現方法等を選択することにより自らめあてをもって学習でき、題材を自分の課題としてより主体的にとらえることができる。また、教師は、その題材に適した方法で、児童一人一人の思いや願いが発揮できる場と時間を用意し、学習活動の中で児童がきらめく瞬間を見逃さずにしっかりと受け止めていくことが肝要であると考えられる。その成就感や満足感の積み重ねの中で、児童は、生き生きと生活するようになるであろう。

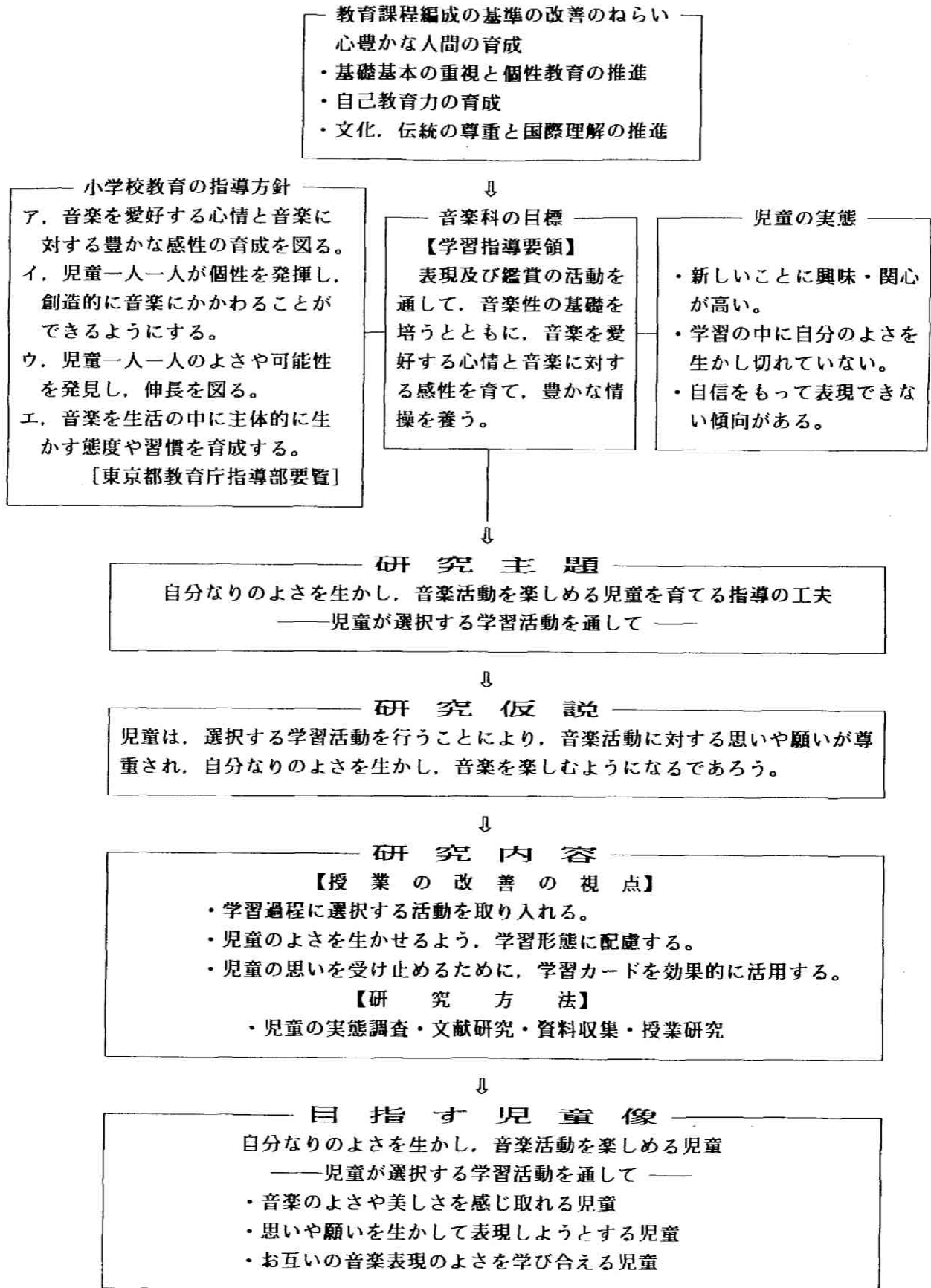
そこで、これまでの指導を振り返るとともに、音楽活動を楽しめる児童を育てる指導の工夫を究明するために、本主題を設定した。

## 2 研究仮説

児童は、個性や可能性など、その子にしかないよさを持っている。そのよさを自ら生かし音楽を愛好することにより、豊かな情操が養われると考える。そこで本年度は、音楽活動における児童の選択する学習活動に焦点を当て、次のような研究仮説を設定し研究を進めていくこととした。

児童は、選択する学習活動を行うことにより、音楽活動に対する思いや願いが尊重され、自分なりのよさを生かし、音楽を楽しむようになるであろう。

### 3 研究の全体構想図



## Ⅱ 研究の内容

### 1 児童の実態

所属校の児童の実態調査から、次のことがわかった。

- ・新しい曲を知ることを楽しんでいる。
- ・演奏したことのない楽器を見ると演奏したくなる。
- ・いろいろな曲をたくさん聴くこと、歌うこと、合奏することが好きである。
- ・自分の声や、表現能力に自信がもてない。
- ・人前で表現することに積極的になれない。

これらは、知識、技術の注入主義的な指導がなされがちであったことに対する反省から、徐々に指導法が改善され、児童の音楽活動に対する意欲が育まれてきているととらえることができる。しかし、音楽に対する感性や表現などにおける自分のよさが分からないために自信がないという実態も明らかになった。それは、思い通りに演奏できなかったときのことや、人と違う表現をすることを恐れるなど、心理的な圧迫感も影響していると思われる。そこで、以上のことをまとめると次のようになる。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・新しいことに興味、関心が高い。</li><li>・学習の中に自分のよさを生かし切れていない。</li><li>・自信をもって表現できない傾向がある。</li></ul> |
|---|

### 2 目指す児童像

音楽には、言葉では伝えられない思いを、音を通して感じたり表現したりする喜びがある。この鑑賞や表現の活動を、自分なりのよさを生かして積み重ねることにより、音楽の楽しさを味わうことができると思われる。それとともに、音楽に対する感性が養われ、心豊かな児童が育つと考えられる。

授業の中で音楽を楽しむ児童の姿としては、次のようなことがあげられる。

- ・出会った音楽のよさや美しさを感じ取ることで、その楽曲への自分なりのかかわり方を考え、進んで活動する気持ちが高まる。
- ・一人一人が、自分のよさを生かして表現しようとすることによって、音楽に対する思いや願いが達成される。
- ・お互いのよさを発見し、認め、学び合いながら影響し合うことで、よりよい表現に向かって意欲がわく。

このように、目指す児童像を描きながら授業の改善を進めた。

この児童像を実現するために、教師は、児童の実態を十分に把握し、一人一人の個性や音楽への願いを生かすことができる活動場面を用意するとともに、見通しを持って支援していくことが必要である。

ここでは「自分なりのよさを生かす」と、「音楽活動を楽しむ」について以下述べることにする。

## (1) 自分なりのよさを生かす

子どもには、本来その子にしかないよさがある。音や音楽に対する感じ方や、興味・関心の示し方も、それぞれ異なっている。この違いは、一人一人のよさに通じるものであり、そのよさを生かし、主体的に音楽活動を進められる児童を育成することが、これからの音楽科においては大切である。

しかし、実際には教師主導的な指導法や技術偏重の傾向があり、一人一人の児童が自分なりの感じ方や考え方を生かし切れていない現実がある。

そこで、これからは、児童のわずかな変容にも目を向け、いろいろな音楽活動の中で、児童が意欲的になっているところを見付け、認めていくことが大切であると考えた。そのためには、児童一人一人が自分のよさに気づき、「自分はこれならがんばれる。」という意欲の基に、よさを生かして活動していけるような授業の実現に努めることが必要である。

よさを生かすためには、教師は児童に対して愛情ある共感的な態度で接し、児童の実態をよく把握するとともに、児童の心の動き、即ち、興味・関心・意欲などを大切にした指導を心がけることが重要である。また、一人一人のよさが発揮できるよう、教材選択や教材提示の工夫をし、学習形態の配慮にも留意することが大切である。

## (2) 音楽活動を楽しむ

児童が音楽を楽しんでいるのは、音を出してみたり、曲がうまく演奏できたり、気に入った曲を繰り返し聴いたり、また頭にうかんできたメロディーを口ずさんだりする時など、様々である。

音楽活動では、自分の表現する音が、互いの音楽表現の中に溶け込んでいくという喜びを感じることができる。また、音楽を聴くことにより、よさや美しさを感じることは、豊かな創造性を育み、児童一人一人の思いやイメージを広げることができる。このような音楽活動でのわくわくするような経験の積み重ねが、学ぶことの満足感や成就感につながり、自らの表現の意欲へとつながっていくのである。

音楽活動を楽しむためには、児童自らがこうしてみたいという意欲をもち、自分なりの表現が、より美しい音楽を求める活動の中で生かされ、音楽に感動しながら、さらに深まりを求めていくことが大切であると考えます。

### <児童が音楽活動を楽しむ条件と児童の姿の例>

ア 学習活動のねらいが分かり、自分に合ったやり方で行えること。

「なるほどそうか」「こうしてみよう」

イ 教材が魅力的であること。

「やってみたい」「聴きたい」「いいなあ」

ウ 活動が児童の主体性を生かし、多様で魅力的であること。

「楽しい」「もっとやりたい」「もっとよくしたい」

エ 学習のそれぞれの過程において成就感、満足感を得られること。

「やった」「できた」「わかった」

オ 友達や教師との人間関係が温かい雰囲気であること。

「がんばれ」「よかったね」「すごいなあ」

### 3 児童が選択する学習活動

これまでの学習活動は、どちらかという、教師主導で知識や技術などを教え込み、それに沿った活動を進めていくことが多かった。このように児童の活動が決められた方法でのみ行われると、その子なりのよさを、十分に発揮することができない。そのため、言われたことを言われた通りにしていればよいという、受け身的な態度になることが多く見られた。

そこで、音楽の学習の中で、児童が自らのよさを生かして、主体的に学習していく能力や態度を育てるために、選択するという活動に焦点を絞り、テーマに迫ることとした。

#### (1) 選択する学習活動のとりえ方

選択する学習活動とは、音楽の学習において、表現を工夫したり鑑賞を深めたりする時に、児童が自分なりの思いや願いに沿って、学習の内容や学習活動を選択する主体的な活動のことである。ここでは、児童が自分の思いを実現するために選び取る活動の全てを、選択する学習活動と考えた。いくつかの選択する学習活動の場면을挙げる。

- ア 自分に合った聴き方を選択する。
- イ 選曲をする。
- ウ 表現手段を選択する。  
(歌唱・鑑賞・器楽等)
- エ 楽器を選択する。
- オ パートを選択する。
- カ 表現の仕方を選択する。
- キ 次の学習のめあてを選択する。

#### カ 表現の仕方の例

- ・楽譜に自分なりの工夫を加える。
- ・伴奏を考える。
- ・イメージに合うよう、音を選んだり、身体表現を考えたりする。
- ・即興的なリズム問答、ふし問答をする。
- ・互いのよさを取り入れる。

#### (2) 選択する学習活動の効果

音楽の授業の中に、選択するという学習活動を意図的・計画的に取り入れていくことにより、次のような効果があり、児童は音楽活動を楽しめるようになる。

- ・児童の思いや願いが尊重され、自分のよさが生かされる。
- ・学習のめあてが明確になり、活動が焦点化される。
- ・学習意欲が高まり、主体的な音楽活動が展開される。

#### (3) 教師の配慮事項

- ・児童の実態を十分に把握する。
- ・児童が選択する学習活動の内容を吟味して計画を立てる。
- ・児童が見通しを持ち、主体的に取り組めるような学習展開を支援する。
- ・自分なりのよさが発揮でき、認め合えるような学習環境をつくる。
- ・児童の思いや願いが生かされて、学習が進められたかを評価する。



#### 4 授業の改善と指導事例

選択する活動を通して、児童が自分なりのよさを生かして、音楽活動を楽しめるようにするためには、どのような授業の改善が考えられるかを、授業実践を通して追究した。ここでは、いくつかの有効と思われる具体例を示しながら述べる。

(1) 学習過程に選択する活動を取り入れる

児童の思考の流れに基づいて学習過程を考えた。その過程を、〈出会う〉、〈感じる〉、〈深める〉、〈めざす〉の4つの段階に分け、それぞれの過程における児童の意識を重視することにより、個々の思いを大切にできると考えた。

〔\*下記の選択する活動ア～キはP. 6参照〕

学 習 過 程	学 習 活 動	予想される児童の意識	*選択する活 動
出会う	聴く	「いいなあ」	ア
／	イメージをもつ	「こうじゃないかな」	
感じる	思いをもつ	「やってみたい」	イウ
↑	音に表してみる	「こうしたらどうかな」	↓
↓	練習する	「これがいい」	エオ
深める	交流を通して高め合う	「この表現もいいな」「あれ、ちがうな」	カ
	客観性をもって磨き合う	「～にちがいない」	↓
	納得のいく表現をつかむ	「できた」「わかった」「すごいなあ」	↓
	認め合う	「よかったね」「あんなやり方もあるのか」	↓
	振り返る	「うれしいな」	↓
めざす	新たな意欲をもつ	「もっとやりたいな」	キ
	応用する	「これにも使えそう」	↓

〈出会う〉題材や教材について、思いやイメージをもつ段階である。ここでは、意欲がわくことを重視している。児童のとらえ方は様々であり、それぞれに対応するための選択肢が必要である。

〈感じる〉ここでは、自分なりの思いやイメージを具体的な活動に移す。自由な選択を許容しつつ、楽曲等に十分かわらせ、学習に見通しがもてるようにする段階。

〈深める〉自分なりの思いを、友達との学習を通して振り返らせ、音楽的な価値にふれさせていく。さらに、自分になかった表現を感じ、音楽観を広げていく段階である。また、ここではよりよい表現の追求、試行錯誤のくり返しなどにより、〈感じる〉との行き来も考えられる。

〈めざす〉学習の成果や足跡を振り返り、成就感を味わったり、成果を認め合ったりすることで、さらに新たな課題への意欲を引き出していく段階である。

【選択する活動を取り入れた指導事例】

〔1〕 題材 「グループアンサンブルを楽しもう」（第6学年，12時間扱い）

〔2〕 題材の目標

- ・楽器の特性を生かし，旋律のまとまりや音の重なりを感じ取って演奏できるようにする。
- ・自ら選択し，お互いのよさを認め合いながら，楽しく合奏できるようにする。

〔3〕 教材 （児童の選択による）

「君をのせて」 久石 譲作曲      「ナウシカ・レクイエム」 久石 譲作曲  
 「海に見える街」 久石 譲作曲      「そして伝説へ…」 すぎやま こういち作曲

〔4〕 学習計画（12時間扱い）

…選択する活動

	時	学 習 活 動	予想される児童の意識	評 価
出 会 う	1	学習の流れを知る。	「おもしろそうだな」 「できるかな」	
	2	持ち寄った楽譜や学校にある 楽譜の中から <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">選曲する。</span>	「こんな曲がいいな」 「かっこいい曲をやりたい」	自分の思いを生かそ うとしているか。
感 じ る		<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">楽器分担をする。</span>	「やったことのない楽器をや ってみたいな」	自分なりのイメージ で楽器を選択してい るか。
	3	決めた楽器に合わせ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">楽譜を工夫し分担する。</span>	「メロディをやってみたい」 「リズムは自分で考えよう」	
↑ ↓	4	自分なりに <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演奏の仕方を工夫する。</span>	「こんな表現もいいな」	楽譜や演奏の仕方を 工夫しながら練習し ているか。
	5	他のパートと合わせる。	「自分だけならできるのに」	
	6	グループで合わせる。	「うまく合わないぞ」	

深 め る	7	合わせてみて <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">うまくいか ないところを練習する。</span>	「メロディーが聴こえない」	速さや音量のバラ ンスなどに気を付けて 練習しようとしてい るか。
	8	合奏する時に何が大切か考え てみる。	「まだ練習が足りないよ」	
	9		「気持ちを合わせなくちゃ」	
め ざ す	10	グループごとに演奏する。 (中間発表)	「すごいなぁ」 「あんなやりかたもいいな」	他のグループのよさ を認めようとしてい るか。
	11	友達や先生の意見を <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">取り入れ、まとめる。</span>	「ああそうか、わかったぞ」 「こうやればいいんだ」	表現方法を工夫し、 協力して合奏しよう としているか。
	12	グループごとに演奏する。  学習カードに感想を記入する。	「やったぁ」 「打楽器のリズムがかっこい いな」  「今度あの楽器を使おう」 「歌も入れてみたいな」	他のグループのよさ を感じ取ろうとして いるか。

#### 〔5〕考 察

自分たちで選曲し、楽器を決め、ピアノ譜や様々な編成の合奏譜などをそれぞれのグループに合わせて工夫し、練習していった。学校にある楽譜や、家から持ち寄った楽譜の中から選曲するに当たっては、グループ内で意見をまとめるのにだいぶ時間がかかったようである。中には、練習を始めてから意見のくい違いが出て、選曲し直したグループもある。

グループの中で、鍵盤楽器の得意な児童、リズム楽器の好きな児童など、それぞれの思いを尊重し、楽器分担をした。そして、友達や教師からのアドバイスを取り入れながら、個々に合った表現手段、表現方法を選んで練習していくことにより、自分なりの満足感が得られ、学習に対してこれまでより積極的な姿勢が見られた。教師の価値観の押し付けではなく、自分たちで選択し、試行錯誤していく中で仕上がったことへの喜びは大きく、音楽活動を楽しむことができると思えられる。



【出会う過程での指導事例】

音楽をつかって表現する活動では、児童が具体的な音楽表現へのイメージを持っていることが大切である。そこで、音楽を実際につくる前段階に、選択する活動を取り入れた。題材から受けた印象を言葉に置き換えたり、絵に描く活動をし、その中から表現するテーマを選択し、児童が題材をより身近に感じて表現できるようにした。

ここでは、冬の様子を表す言葉を出し合って、その中からグループごとに選択し、そのテーマを絵で表した後、図形譜などで時間の流れを表し、楽器等で即興表現するものである。本時は、題材のイメージをふくらませる活動である。（第1次）

題材 「冬の様子を音に表そう」（第5学年，5時間扱い）

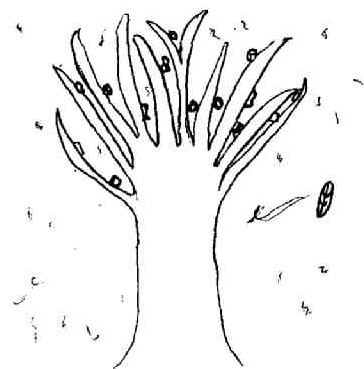
題材の目標 ・冬の様子を、いろいろな音やリズムの組合せを工夫して表現する楽しさを味わう。

〔選択する活動について〕

- ・冬の様子を表す言葉を出し合い、表現したい言葉（テーマ）をグループごとに選択する。
- ・テーマを絵で表す活動の中で、表現したいことを出し合って選択し、描く。
- ・どんな楽器を使うか選択する。
- ・どんな楽譜に表すか選択する。

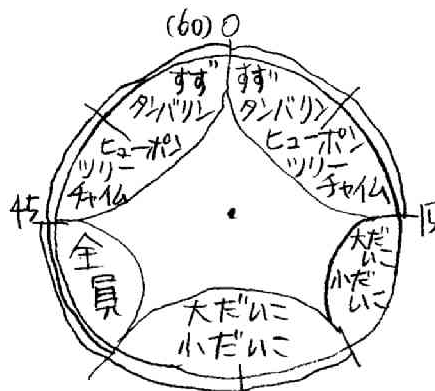
〔児童のスケッチから〕

「樹 氷」



きれいな音をさがそう

「なだれ」



最初は静かな景色で  
たんたんたんたんたんたんたん  
これが来る。

〔留意したこと〕

- ・いろいろな楽譜の表し方を提示した。

〔考察〕

一つの事象のとらえ方は、一人一人実に様々である。その様々なイメージを音として表す時に、児童のもつ美意識やテーマに沿って一つに

まとめる力など、その児童なりの思いや感性が、はっきり音楽という形となって表れる。それが創作の楽しさである。選択する活動を取り入れることにより、一人一人の児童の持つ柔らかな感性は、抑えられることなく自由に発揮できる。また、その多様な感性を共感を持って認めていく教師の目が大切であると考えられる。

### 【出会う／感じる過程での指導事例】

授業のなかで、児童が楽曲と出会う時の様子をよく見ていると、いろいろな反応をしながら、曲趣を感じ取ろうとしていることに気付く。これを選択する活動として位置付けることで、児童は自分に合った聴き方で、楽曲と向き合うことができる。このことが、児童にとって、自分なりのよさを生かして、音楽活動を楽しむことにつながっていくと考えた。

題材 「曲の気持ちをつかもう」（第1学年，6時間扱い）

教材 「あいあい」相田裕美作詞 宇野誠一郎作曲

「おばけなんてないさ」槇みのり作詞 峯 陽作曲

題材の目標 ・曲の気持ちを感じ取って、聴いたり表現したりする。

・選択する活動を通して、楽しく学習に取り組めるようにする。

#### 〔選択する活動について〕

下記の5つの聴き方を、選択肢として提示した。

- ・じっとして聴く
- ・手拍子を打って聴く
- ・おさる（おばけ）のまねをして聴く
- ・口ずさみながら聴く
- ・指揮者になったつもりで聴く

#### 〔児童の感想例〕

てがいたくなっただけ  
おもしろかった。「あ  
いあい」とはやくいう  
ところで、たたきかた  
をかえました。こんど  
たいこでやりたいな。

あとから、おばけとこ  
どもになっていっしょ  
にやったら、げきみた  
いになりました。おど  
かしたりしたのがとて  
もたのしかったです。

しきしゃになったらし  
ょうこちゃんがおしえ  
てくれて、いっしょに  
うたってくれました。  
だからきょうはうれし  
かったです。

ぜんぶおもしろかった  
けど、はずかしいのも  
あって、えらぶのがよ  
くできなかった。この  
つぎにやるのが、ちょ  
っときめられません。

#### 〔考 察〕

楽曲に対する児童一人一人の受け止め方を尊重するため、自由な聴き方を容認した。しかし、「さあ、自由に聴きなさい」と投げかけても、児童は戸惑うだけなので、選択肢を与え、そこから自分が一番楽しく聴くことができる方法を選ばせた。その際、下記のような点に留意して指導を進めて行った。

- ・学年の発達段階を考慮して、聴く活動の内容を吟味し、数を絞って設定した。
- ・あらかじめ、それぞれの聴き方を提示し、まず、一斉に活動させた。

このような手立てを用いながら、選択する活動を設定したことで、児童は楽しみながら、楽曲を何度も繰り返し聴こうとする様子が見られた。また、この活動によって、全員が同じことをしなくてもいいことを知り、児童は安心して自己表現しながら、楽曲に対する思いを明確にしたり、楽曲の特徴を表現に生かそうとするようになった。



なお、このような活動を低学年で設定する場合、扱う楽曲については、児童が活動を選択しやすいよう、旋律やリズムを感得しやすく、歌詞からイメージをつかみやすいものを用いることによって、学習活動を選択して取り組むことが容易になると考える。

【感じる←→深める過程での指導事例 ①】

日本の音楽表現の特徴が感じ取れるようにする学習に、児童が選択する活動を取り入れた。ここでは、児童が「うさぎ」を、いろいろな表現の仕方で歌ったり、「ひらいたひらいた」を箏で伴奏したりすることによって、楽器の演奏に親しみながら、自分なりのよさを生かして音楽活動を楽しむことをねらった。

- 題材 「日本の音楽に親しもう」（第3学年、12時間扱い）  
 教材 「うさぎ」「ひらいたひらいた」  
 題材の目標 ・演奏の形の選択や伴奏の工夫をすることによって日本の音楽に親しむ。  
 ・箏で簡単な演奏ができるようにする。

〔選択する活動について〕

- 音楽のいろいろな表現の形を取り入れた「うさぎ」の歌唱表現を次の6つより選択した。
  - ・日本音階の和音によるピアノ伴奏 ・能楽（謡曲）風無伴奏 ・和太鼓伴奏
  - ・フレーズの途中に相撲の呼び出しの声が入った演奏 ・歌舞伎風後奏 ・箏の手事風伴奏
- 「ひらいたひらいた」分散和音による箏伴奏の形 箏の弦（糸）の合わせ方


- 児童相互の表現を認め合い、選択の活動を通して次時の活動に生かす。 1 2 1 1 1 0

〔考察〕

「うさぎ」の表現を上記の6つの中より選択して歌う活動を続けていくうちに、児童は、その表現がテレビ番組やゲーム、祭礼、武道などにみられることに気が付くようになっていった。

そこで家族の演奏している謡曲と似ているという意見をもとにして謡曲「高砂」の鑑賞を行った。このようなことを通して日本の音楽表現の豊かさを身近なものとして感じ取ることができた。

「ひらいたひらいた」の箏の伴奏の工夫をする場面で、柱を動かすことによって音程が変わり、奏法によって音色が変わることを演奏しながら発見していった。具体的には、違った弾き方を合わせて響きを楽しむ、糸の上を細いバチで打つ、違った音高の糸を一緒に演奏するなどである。

このようなことを自分で発見できなかった児童も他の児童の活動を見て気が付いていった。

以上のようなことをきっかけにして、いろいろな音楽のよさを感じ取れる児童を育てたい。

（伴奏の工夫例）



## 【感じる←→深める過程での指導事例 ②】

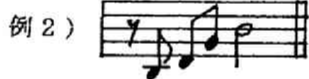
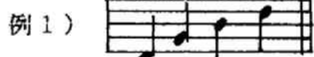
和音構成音を使ったふしづくりの学習に、選択する活動を取り入れた。児童が、自由に思考する中から表現の仕方を選択し、それがグループの中でも生かされる。このことにより、児童一人一人の思いやよさが生かされ、音楽活動を楽しめると考えた。

題材 「和音の響きを感じながら表現しよう」（第5学年、10時間扱い）

教材 「静かにねむれ」 フォスター作曲

題材の目標 ・三和音の響きの違いを感じながら、表現したり聴いたりする。  
・三和音の響きを感じながら簡単な旋律を作ることにより、工夫して表現する楽しさを味わう。

これは、三和音の構成音を使い、各フレーズ間のつながりのふしをグループで楽器を使って工夫したり、それを生かして合奏したりする活動である。



「こんなのかな」

### 〔選択する活動について〕

- ・児童が、和音を構成している音を使い、自由にふしづくりをする中で選択する。
- ・グループの中で考えを出し、聴き合いながら表現を選択する。
- ・グループで発表することにより、互いの表現を認め合い、自分に取り入れて次の学習に生かしていく。

### 〔考察〕

楽器を前にして最初は戸惑っていた児童も、グループの中で友達が実際に音を出すのを見て聴いたりするうちに、活動方法が分かり、次第にグループ内で自由に表現しだした。本時では選択する部分を絞り、また楽器も、音の位置を目で確かめられる鍵盤楽器や木琴、鉄琴を使った。そのために児童は、経験や技能にあまり左右されることなく、いろいろ工夫して表現し、その中から選択したり、グループ内では友達の演奏と比べながら意見を出し合い、表現を選択したりしてふしを作り上げていった。活動後の、「自由に考えられて楽しかった」、「もっと他の音も使ってみたかった」という感想からも、児童は、自ら考え選択していく学習を通して主体的に活動し、自分なりのよさを生かして音楽を楽しんだものと思われる。今後は、児童一人一人が選択した表現を、より音楽的にどう高めていくか、また、もっと多人数のグループで活動する場合、児童一人一人が選択した表現をグループ内でどう生かしていくか、さらに研究して深めていきたい。

### 【めざす過程での指導事例】

本事例は、アンサンブル活動を通して、児童の思いや願いを生かせるように題材を計画し、選択する活動を取り入れた事例である。

#### 〔事例1〕（第6学年1学期）

5年生で行った、曲の構成や伴奏楽器・打楽器の音色を工夫するリコーダーの2部合奏に続くアンサンブル活動であり、いろいろな楽器を演奏してみたいという児童の思いや願いを生かせるように配慮した。

題 材	「ひょうしとリズム」（第6学年 5時間扱い）
教 材	「ウィーアーザチャンプ」 ARMA TH作曲
題材の目標	・拍子やリズムを感じ取って、曲想を生かして表現する。 ・友達と協力し、お互いの表現のよさを認め合って楽しく合奏する。
選択する活動について	・旋律楽器の種類をリコーダーのみから、木琴・鉄琴・リコーダー・ピアノ・シンセサイザーに増やした。 〈楽器（音色）を選択する〉 ・本題材において、児童がどの楽器でも担当できるように、技術面における配慮をして編曲した。 〈技能面の選択の幅を広げる〉

#### 〔事例2〕（第6学年2学期）

児童の1学期の授業後の感想や、昨年度から積み重ねてきた学習経験を生かせるように設定したものであり、児童がグループごとに選曲をし、表現の工夫をするという学習活動である。

題 材	「工夫してアンサンブルをしよう」（第6学年 12時間扱い）
教 材	組曲「ファイナルファンタジー」 植松伸夫作曲
題材の目標	・旋律のおもしろさや美しさを感じ取り、音楽の構成要素を工夫して表現する。 ・お互いの演奏のよいところや工夫したことに気付き、認め合うことができる。
選択する活動について	・グループごとに選曲できるように教材（6曲）を準備し、児童の演奏能力に応じて編曲した。 〈発表曲を選択する〉 ・グループごとに表現の工夫の仕方（テンポ・強弱・音色・音の重なり・リズム等）を選択できるようにした。 〈表現の工夫の仕方を選択する〉

#### 〔考 察〕

事例1で、いろいろな楽器を使ってアンサンブルをすることに慣れてきたため、児童の思いや願いは、「今度は違う楽器に挑戦してみたい。」とか、「グループごとに違う曲で発表会をやってみよう。」などに発展してきた。また、児童が選択していく内容は打楽器のみから、いろいろな旋律楽器、演奏する曲へと広がっていった。そのため、事例2では、グループ練習などにも意欲をもって取り組むようになり、リズムパターン・テンポ・強弱・楽器の音色など、自分たちの演奏する曲に応じて選んだり、効果音なども付け加えてみたりして、自分たちなりの表現を楽しめるようになってきた。今後もさらに、児童が自信をもって表現できるように、児童の実態に応じた系統的な学習を行っていききたい。



(2) 児童のよさを生かせるよう、学習形態に配慮する

選択する学習活動では、一つの題材や、一時間の授業において、児童によって、それぞれ異なる活動も予想される。したがって、学習内容に応じて、児童のよさを引き出せる学習の形態を、実態に即して、柔軟に考える必要がある。

学習形態には大きく分けて、個別学習、グループ学習、一斉学習がある。

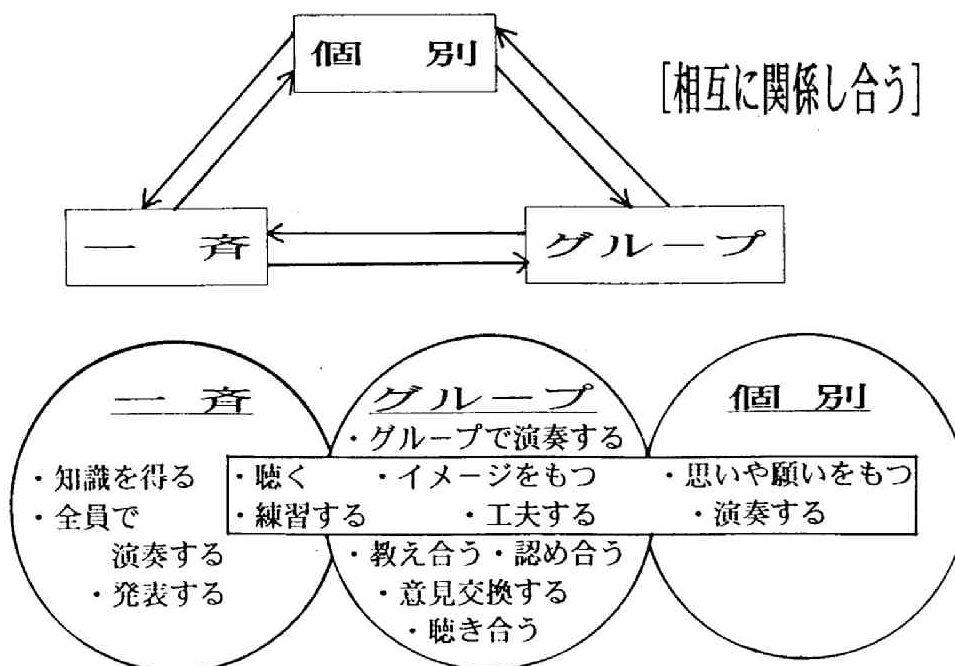
個別学習では、学習のねらいに向かって、その子なりに自分にあった方法を選び、学習することができる。したがって、出会う段階ではもちろん、その後の学習過程でも児童の実態と活動を考え、適宜取り入れていく形態である。

学習が進むと、個の思いや願いから、活動の選択もある。そこでは個の学習だけでなく、児童が自然に集まって、教え合ったり、認め合ったりすることも考えられるし、複数の活動が必要になることで、グループ学習が考えられる。主体的に、グループで工夫し、作りあげの中で一人とは違うよさも見つけ、それを発揮していける。

さらに学習が進み、個の思いや願いが全体の場合への反映を望めば、一斉学習において、個と全体とが相互啓発し合ったり、音楽的感動を共有したりできる。また、一斉学習は基礎・基本をはじめ、児童の思いや願いを実現するためにも、音楽活動をするために必要な内容を全体で学習することができる。このように一斉学習も学習のねらいや内容に応じて有効な形態であると言える。

また、児童のよさを生かすため、実態に即して、チーム・ティーチング等、様々な工夫や試みを行うことも考えられる。

<三つの学習形態における、有効な活動例>



### 【学習形態を工夫した指導事例 ①】

グループ学習を中心にした授業においても、個別学習や一斉学習を学習に応じて取り入れることは必要である。次の事例では、一つの題材の中で学習形態が移行していく。

- 題材 「ふしと和音～和音のひびきを感じとって」（第5学年，8時間扱い）  
 教材 「静かにねむれ」 フォスター作曲  
 題材の目標 ・和音の響きの違いを聴き分けられるようにする。  
 ・和音伴奏を入れた合奏をし、和音のひびきを意識したアンサンブルを楽しむようにする。

学習の計画 （個別学習を個，グループ学習をグ，一斉学習を斉と表示した。）

	ね ら い	学 習 活 動	学習形態		
			個	グ	斉
出 感 会 じ う ↑ ↓ 深 め る	旋律の感じをつかむ。 響きの合う和音を見つ ける。	・旋律を曲想を考えながら歌う。 ・和音の種類を知り、聴き分ける。 ・旋律に合う和音を選択する。	○		○
	主な旋律，副旋律，バ スのパートの役割を知 る。 グループで響きを聴き 合う。	・パートの役割を考えながら，主な旋律とバス パートを鍵盤ハーモニカで，副次的旋律をリ コーダーで，練習する。 ・グループごとに合奏練習をする。 （個人やパートごとに練習したのち，グループ で合わせる。） ・中間発表を行ない，和音の響きをグループ同 士で互いに聴き合い，意見を交換して，練習 方法を考える。 ・グループごとに合奏練習をする。	○	○	○
め ざ す	きれいな和音の響きを 意識する。	・互いの音をよく聴き合いながら合奏する。 ・発表する。 ・相互評価をする。		○	○

#### 〔考 察〕

一斉学習で、各和音の聴き比べをしたり、旋律と和音の関係を考えたりしたことで、きれいな響きを意識するようになった。また、グループ練習の前に各パートを階名唱し、リコーダーや鍵盤ハーモニカで実際に音を出して演奏することで、それぞれの役割を知り、練習の中で互いに意見を出し、教え合うことができた。そして、各パートと自分のパートとの関わり方を学ぶことにより、リズムを合わす時に、バスの音を意識したり木琴のパートの児童が他のパートの音を聴いて音の間違いを直したりしている様子も見られた。

このように、一人一人が自分の役割を意識し生き生きと合奏に参加するためには、グループ学習を中心にした授業の場合でも、知識を得るための一斉学習や、技能を養うための個別学習を取り入れていくことが大切である。

【学習形態を工夫した指導事例 ②】

3年生から導入されるリコーダーに、児童は大きな関心を示す。しかし技能における個人差が大きいので、一斉学習の形態では個々の児童に対応できない場合が多い。そこで、それぞれの児童に応じて学習が進められるようにするため、個別学習を取り入れ、リコーダーを常時活動として位置付けた。これは、リコーダー曲集の中の曲を自ら練習し、できるようになったら先生に聴いてもらうというやり方で、合格したら次の曲に進むことができる方法である。

個別学習では、個々に応じた助言ができ、また、児童が自分の学習の状況を明確に自己評価できるので、児童は意欲的に学習を続ける。さらにリコーダー曲集全曲（43曲）ができるようになった児童は、それ以外の教科書や歌集の中から好きな曲を見つけて練習したり、2人で合わせたりするようになり、表現する一手段としてのリコーダーが児童の身近な存在となった。児童が、自分の能力に応じて学習できるので、その子なりのよさを生かした教師の支援が可能である。

● 賞 ●	— 卒業生 —
4年 / 組 _____ さん	たて10組～名人卒業したら 自分の好きな曲をふいてみよう!!
あなたは、リコーダーを大変 よくかんはり、 <u>名人</u> 級に合格 しました。	1. 春の小川
これからも リコーダーに親しみ、 音楽のすばらしさを感じる心を 大切に持ち続けてください。	2. わたしはとうふです
6年4月22日	3. あわてんぼうのたたくろす
小学校	4. あわせばうたをたこ
Ms.	5. ゆかいに歩けば
	6. 山の音楽家
	7. _____
	8. _____
	9. _____
	10. _____

この活動を1年間積み重ねた後、より豊かな表現を求めて、児童自らが表現方法を選択する活動を取り入れた。学習形態も個々からグループへ移行し、児童同士の意見交換や、聴き合うなどの相互啓発による学習により、音楽活動がより一層深いものへと発展する。

個別学習

グループ学習

「ここがわからないな」

「友だちとあわせてみようかな」

「こんなふうにやってみたいな」

「やった！合格した！」

「あんなやり方もおもしろいな」

「よし！次もがんばるぞ！」

「まねしてみよう」

「みんなであわせると楽しいな」

〔考 察〕

グループでの学習形態は、少人数構成であるため、よりその子なりのよさを生かせる場面が多くなる。さらにそこに選択する活動を取り入れることにより、児童の思いや願いが学習活動に反映され、学習がより活発に行われる。ただし、それにはそれまでに培った音楽的な能力や音楽体験に基づくことが多いので、めあてに応じて学習形態（個別学習、グループ学習、一斉学習）を選ぶ必要がある。ここでは個別学習からの発展としてグループ学習を位置付けたが、全ての活動が相互に関連して螺旋状に進んでいくことが大切である。

〔事例〕

- 題材 「イメージを広げて表現しよう」（第4学年，7時間扱い）
- 教材 既習曲より児童が選択「小さな舟乗り」岩谷時子作詞 羽田健太郎作曲  
「日本むかし話」北原じゅん作曲  
「まきばのこうし」小林純一作詞 川口晃作曲 等
- 題材の目標 ・リコーダーの楽曲と即興的な表現を組み合わせ、イメージを広げて表現する。  
・お互いの表現のよさを味わって聴き合う。

〔学習の計画〕

	ね ら い	学 習 活 動
出 感 会 じ う ↑ ↓ 深 め る	表現したいもののイメージをもつ。	・表現してみたい曲を選ぶ。 ・その曲に対するイメージをことばで表す。 ・グループに分かれる。
	一人一人がこうしたいというイメージに基づいて、協力して表現を工夫する。  お互いに聴き合い、意見を交換しあいながら表現の工夫を練り直す。	・曲のイメージに合わせて楽器を一つ選び、表現を工夫していく。 ・既習曲の表現方法・楽器の選択・リズム伴奏 ・和音伴奏・かざりのふし・効果音 ・身体表現など  ・聴いてみたいグループのところへ行って聴き合う。 ・毎時間1つのグループの演奏を聴き意見を交換する。 ・中間発表をし、意見を言い合う。
め ざ す	それぞれの発表を聴き合う中で、よりよい表現に対する意欲をもつ。	・学年2クラス合同で発表会を開き、お互いに聴き合う。

〔考察〕児童は、表現方法を選択できることに大変関心を示した。イメージを表現するためにはどんな音色の楽器を入れたら効果的なのか、どのような方法で楽器と笛を合わせたらよいのかなど、グループに分かれて話し合いを始めたときから、それぞれの思いで活発に意見を出し合った。また、今まで一人で吹いていた曲をグループ数人で合わせることの面白さも手伝い、歌も入れてみようかとか、音をつくって二部にしてみようかとか、なかには身体表現を取り入れて表現してみようなど、児童の思いはどんどん広がっていった。このときの学習カードには、それぞれの児童の思いが記されている。

・「小さな世界」は安心してふける曲です。・からだを動かすようにして、「私たちはこんなふうには思っています」という気持ちを知ってもらいたい。・楽しそうだから早くやりたい。さらに、クラスの中のお互いのグループの聴き合いや、学年合同発表会で傾向の違う他のクラスの演奏を聴き合うことは、新しい発見をすることができ、次への新たな意欲につながっている。また、ここでは、イメージを表現することにねらいをおいたので、楽器選択を一つにしただけだが、ねらいによって選択できるものを吟味することも必要であろう。また、それぞれの学習形態も、場に応じて有効に活用していきたい。

### 【学習形態を工夫した指導事例 ③】

専科担任の授業においては、学級担任とのチーム・ティーチングも考えられる。

題材 「日本の音楽に親しもう～みんなのおはやしをつくろう～」(第5学年, 9時間扱い)

教材 「児童の創作による旋律とリズム」「管弦楽のための木挽歌」 小山清茂作曲

「子もり歌」〔日本古謡〕および既習教材

題材の目標 ・いろいろな日本の音楽や楽器に関心を持ち, 理解しようとする。

・日本の音楽の旋律やリズムの特徴を生かして, 表現できるようにする。

4 / 9 時の学習〔和太鼓の指導を協力して行う〕

T1 : 音楽専科 T2 : 学級担任

ね ら い	学 習 活 動	教 師 の 支 援
即興的にふしやリズムを表現できるようにする。	ふしあそびやリズムあそびをする。(模倣・問答・リレー等)	T1:切れ目なく続くよう, 留意する。 T2:拍感を感じるよう, 言葉がけをする。
おはやしをイメージしてリズムをつくることができるようにする。	8拍のリズムづくりをする。 ・ことばでつくったり, ひざをたたいてつくったりする。 ・和太鼓でたたいてみる。	T2:創作中の児童に助言したり, 励ましたりする。 T1:作り上げたリズムを聴き, 助言したり成果を認めたりする。
つくったリズムを聴き合い, よさを感じ取ることができるようにする。	和太鼓で自分のリズムを発表したり, 友達のリズムを聴いたりして, 意見交換をする。	T1・T2:児童が互いの成果を認め合えるような, 温かい雰囲気作りに心がける。

#### 〔考 察〕

和太鼓は児童には興味深い楽器であるが, たたき方に自信がないと, みんなの前で精一杯たたくことを躊躇する子もいる。今回は, 児童にとってより身近な担任の先生と一緒に和太鼓の学習ができるということで, 初めての子も安心して楽しく取り組んでいた。さらにリズムづくりでは和太鼓をたたく前に担任の先生が, やり方のわからない子には, 拍の取り方や, たたき方等の助言をしたり, 自信のない子には, つくったリズムを聴いて励ましたり, 認めたりしたその結果, 全員が自分なりに工夫したリズムを自信をもって発表することができ, 満足感を得られたようだった。

一人一人がそれぞれ自分で工夫してつくる活動では特に, その子にあった支援をしたり, 賞賛をしたりする機会がふえることが, 自分なりのよさを生かす可能性を広げるので, 指導者が複数いることが有効であると考えた。

なお, この形態では, 指導計画全般にかかわって, 共通理解が必要である。



「こんなリズムができました！」

(3) 児童の思いを受け止めるために学習カードを効果的に活用する

児童がより主体的に学習に取り組むためには、自分で考え、学習内容をまとめていくことが必要となってくる。また、教師としても、児童のよさが生かされるように、実態を把握することが大切である。

そこで、学習カードを取り上げ、支援の仕方を考えていくこととした。

① 学習カード使用の目的

ア 現在の学習の内容や状況を整理する。

授業の中で感じたことや、身に付けたことを書くことにより、児童や教師が学習の状況を把握することができるとともに、次のめあてがはっきりする。

イ 子どもの思いが教師に伝わる。

一人一人の児童が、どんな思いで学習活動しているのかを知ることができる。このことは、個々のよさを認める上で大切な資料となる。

ウ 次の学習への意欲を高める。

児童は自らの手で選んだ学習活動から、次時のめあてを確認し記入することにより、音楽活動への意欲を高めることができる。

－毎時間の学習内容をまとめる－

6/2	曲を決めた。楽器の必要な物を考えた。
6/7	曲を君をのせてにかけた楽器のやる人を決めた。
6/9	どこでうつが決められた。こんどの時は大太鼓を使ってやる。
6/14	大太鼓を使って少しやってきたらなんとなくあわせないような気がした。
6/16	大太鼓はあわせないの、小太鼓にかえた。小太鼓にかえたらい外とあった。
6/21	今日はみんなであわせてきた。い外とうまくできたけどピアノがとまってしまう。



② 学習カードの活用例

【低学年】

題材 「曲の気持ちをつかもう」(第1学年) [事例P. 11]

低学年では、なるべく記入する量の少ないもので、本時を振り返り、次時のめあてを持てるようなカードが望ましいと考える。

左下のカードは、第一次、第1時の終末に用いたものである。次の学習に対する思いが膨らみ、早くも楽曲の拍感を感得しつつある様子もうかがえる。

教師はこれらのカードにより、それぞれの児童がどう選択したのかを確認することができる。さらに、次時への思いの記述により、個に応じて具体的な手立てを用意することができる。

たとえば、右下の表は、座席表を用いたチェックリストとして、学習カードを活用した例である。ひとつの題材を通して、すべての時間ごとに記録することにより、児童の変容を確かめることができた。

がくしゅうカード

1ねん なまえ

いちばんたのしかったことに、○をつけましょう。

( ) じっとしてきいたこと  
 ( ) てをたたいたこと  
 ( ) おぼけになったこと  
 ( ) てーぶといっしょにうたったこと  
 しきしゃになったこと

つぎのじかんは、なにがしたいですか。  
○をつけましょう。

( ) きょうえらんだことのつづき  
 ちがうこと

スキップしながらうたいたい

	A児	B児	C児
第一次(1) いちばん楽しかったこと	しきしゃになったこと	テープといっしょにうたったこと	おぼけになったこと
第一次(1) 次の時間したいこと	スキップしながらうたいたい	きょうえらんだことのつづき	てをたたいてやる
第一次(2) 今日は楽しかったですか	あまりたのしくなかった	たのしかった	たのしかった
第一次(2) 次の時間したいこと	けんぼんは一もにかでやる	もっとじょうずにうたいたい	がっきをつかいたい
第二次(1) 今日はどんなことをしましたか	ちがうおへやでけんぼんは一もにかをした	しきのひとといっしょにやりました	かすたねっとやらずでやった

【中学年】

題材 「イメージを広げて表現しよう」(第4学年) [事例P. 16~17]

**小さな世界**

明るく楽しくするために  
歌を歌う人を多くしたり  
言葉をはっきり歌う。

明るくイメージを表現してみました。かっきはリズムにしました。

スタンドシンバルの音をききました。笛はきかいた。いちご吹いてみました。

笛を吹く順を工夫してみました。ふりつけなども工夫してみました。

おどりをやってみてききました。舞のどうりに練習のイメージをたし加えました。

こんなところが すま!!

小さな世界の歌を歌うと、世界の人と友達になりそうところが好きです。Eから、そうゆうことを多くの人に伝えるようにしたいと思ひます。歌を歌う時に世界じゅうのみんなが楽しくしているところを伝えたい。

楽曲に対するイメージをしっかりと持ち、また、工夫していった点を明確にするため、自由にことばを書き込めるようなカードを使用した。

- ①まず、一番下の「こんなところがすき」の欄に自らの曲に対するイメージ、思いを書く。  
(第1時)
- ②間の葉っぱのところにグループでいろいろと工夫していったことを書く。  
(第2時~5時)
- ③最後にグループでこうしようと決めたことやグループでの共通イメージを書く。  
(第6時)

思ったこと・感じたこと

- 本当はちがう曲がよかったです。このまゝ小さな世界をやったからです。でも、みんなと協力して上手にやりたいてす。楽しんで、がんばってねP
- 今日、初めて、かっきをいれてやりました。協力して、楽しくできました。  
いいね、いいね  
意見をたくさん書いてがんばって、

中学年では、書くポイントを分かりやすくはっきりさせることにより、効果的に学習カードを活用することができる。

また、毎時の記録に教師が返事を書くことで、その子に応じた支援が可能になり、児童の一層の意欲付けにもなる。

3	グループで工夫すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>私たちの見ていたらすごくうまくて、<b>リズムかん</b>があったのでそこをちよとまねしてみたかたです。協力してうまくまねていませう。</u></li> </ul>
4	グループごとの練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>今日は、ゆりちゃんたちのをせんこうにして、回ったり、スタンドシンバルのたたき方を工夫してみました。</u> いいね、がんばってましたね、</li> </ul>
5	グループの最後の練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>最後なので、自分では、せいっぱいやりました。本番の時に練習のせいかかてるようにがんばります。大事なことだね。本番でしっかりと力が出るといいね。</u></li> </ul>



【高学年】

題材 「グループアンサンブルを楽しもう」(第6学年) [事例P. 8~9]

練習のようす	
<p>☆曲名 [ 海 の 見 え る 街 ] この曲にした理由 聞いていていい感じがするから。</p> <p>★自分のパート [ エレクトーン ] このパートにした理由 メロディーがひきたいから。</p> <p>☆やってみて良かったところ ・みんな一生懸命やった。 ・リコーダーもできた。 ・みんなでいろいろ教え合った。</p> <p>★やってみて大変だったところ ・リコーダーとなかなかうまくあわせなかつたこと。 ・音の調節がむずかしかった。</p> <p>☆みんなで工夫したところ ・速さ 音色</p>	<p><math>\frac{6}{23}</math> 全員で合わせた。リコーダーの音があまり聞こえなかつたけど、うまくできた。</p> <hr/> <p><math>\frac{7}{7}</math> 7人で合わせた。ピアノのさんがいなくて、ちょっと、ぬけた曲になった。</p> <hr/> <p><math>\frac{7}{12}</math> 中間発表。今度は、音量をうまく調節したいです。けっこううまくできました。</p> <hr/> <p><math>\frac{7}{14}</math> 音量の調節もうまくできました。みんなあんなに楽しかったです。</p>

高学年では、自分で考え、見通しを立てて学習していくことが可能となってくる。そこで、強い関心・意欲を持ち、より主体的に学習に取り組むようにするために、上記の形式の学習カードを活用した。

「練習のようす」に学習の状況を記入することで、毎時間の学習内容が整理でき、次時へのめあてを持つことができる。

第1時の選曲する活動から第12時の発表まで、毎時間書いていくことにより、学習の流れが分かり、一人一人の児童の活動が把握できるのである。

また、カードの左半分的项目(右記のカードも同様)からは、児童の思いが伝わり、この題材を通して何を学ぶことができたかが把握できる。

グループ学習では、これらのカードから個々の様子を見取り、評価の資料としていくことが効果的である。

<p>☆曲名 [ 君 を の せ て ] この曲にした理由 よく知っているから。</p> <p>★自分のパート [ バスマスター ] このパートにした理由 タンホイザー行進曲で、バスアコができたからバスマスターもできると思った。</p> <p>☆やってみて良かったところ 今までのように不自由が 少ないから。</p> <p>★やってみて大変だったところ なかなか全員でリズムが合わなかつた。同じ楽器がないから、しんちょうにやらないといけなかつた。</p> <p>☆みんなで工夫したところ 全体ではチャイムを加えた。 自分では、象のまろがハヤハ所にするしをつけた。</p>
---

### Ⅲ 研究のまとめと今後の課題

#### 1 研究のまとめ

研究主題、「自分なりのよさを生かし、音楽活動を楽しめる児童を育てる指導の工夫」に迫るため、「児童が選択する学習活動」を副主題として、学習過程に選択する活動を取り入れた授業、児童のよさを生かす学習形態、児童の思いを受けとめるための効果的な学習カードの活用方法について研究を進めてきた。その結果、以下のことを成果として得ることができた。

- ・学習過程に選択する活動を取り入れた授業の工夫によって、児童は、自分の音楽に対する思いや願いが尊重され、積極的に課題を見つけたり、自分に合った学び方ができたりして自信をもって活動するようになってきた。
- ・児童のよさを生かせるような学習形態の工夫をすることによって、協力したり、お互いのよさを認め自分の表現に生かそうとしたりする学習態度が育ってきた。
- ・教師が、様々な場面で児童のよさを認めようという評価観に立って、支援や指導をするようになった。
- ・児童の思いを受け止めるための効果的な学習カードの活用方法を工夫することにより、児童理解が深まり、児童のよさを引き出し、生かせるような支援や評価の糸口がつかめた。

#### 2 今後の課題

研究を通して多くの成果を得たが、次のような課題が残った。

- ・学習カードの活用法など児童理解の方法についてさらに研究を深める。
- ・児童が、自分なりのよさを生かせるような教材の開発を行う。
- ・児童が、音楽を楽しみながら、さらに豊かに展開するために必要な技能・知識を自ら身に付けていける学習方法をさらに追究する。
- ・学習活動や学習形態に応じた教師の支援の在り方をさらに工夫する。
- ・自分なりのよさを生かしながら、音楽的な資質の向上を図るために必要な音楽科における基礎的・基本的能力を身に付けることを学習内容として、明確かつ系統的に位置付けた年間指導計画を作成する。
- ・児童のいろいろな音楽表現のよさを感じ取り、それを認められるよう、教師自身の感性を磨き続ける努力をしていく。

今後これらの残された課題を解決するため、研究を継続し、深めて行きたい。